レトロゲーム

清原 京夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
レトロゲーム

【Ｎコード】
Ｎ９８０４Ｏ

【作者名】
清原　京夜

【あらすじ】
個性的な二人の少年がゲームショップで駄弁るお話

二人の少年があるゲームショップにいた。
一人は安っぽい金髪に染めた髪をツンツンに立てていかにもバカそうな少年と、テカテカした光沢を持つ黒髪を七三分けにした、いかにもまじめですと言いたげな少年……おそろしいほど対照的な二人の少年でした。
「なぁ、やっぱり最近のゲーム機ばっかだな。〇〇バンスとか無いのか？」
七三の少年はそうつまらなそうにそう呟いた。
「それはそうだよ、今さら〇―ファミのゲーム、出しても誰も買わないでしょやっぱり。」
「ゲームはレトロて言う人もいるじゃんか。」
金髪の少年はレトロゲームオタクのバカ姉を思い出しながら言った。
「その人と一度話してみたいな、」
「無理だから、はよ、先に進めてくれ」
マジメ（こいつ）君をバカ姉（あいつ）にあったら・・・、どんなカオスだ、
金髪少年が人知れずセンリツしていた。
「なんだよ、確かにレトロ方が今のより面白いのが多いって言うよね、そうなんだよ」
一度落胆したように肩を落とし、……気を取り直したように肩を跳ね起きた、金髪少年はドン引きした。

うぁ、またはじまった、マジメ君の雑学コーナーｉｎレトロゲーム。
マジメ君は一度物識りモードに入ると止まらないと言う。

悪癖を持っていた。それを金髪少年、新藤ハヤテはマジメ君、一之瀬彩人の雑学コーナーと呼んでいるのだ。
「てっ、おい聴いてんのか、コノヤロウ？！」
彩人は先手必勝のごとく右ストレートを肩に決めた。
「痛ってえ、なんだよ」
ハヤトは非難がましく彩人をにらみつけた。
「いやだからゲーム機で聞いて何が思いつく？　ってきいたんじゃんか」
再びハヤトをド突いた。
「そりゃ・・・やっぱり・・・なんだろう、Ｐ　○３かな、ってド突くな」
ハヤトはボディブローをたたきこんだ。
「ぐはぁ・・・」
倒れた雅応を無視して、知っているゲーム機を並べていく。
「ｐ○ｐ，ｐｓ○，スーフ○ミ……」
そしてレトロゲームに入った瞬間、
「うぉ」
ハヤト思わずすっとんきょうな声を出してしまった。いつの間にか復活した彩人は
突然。
「レトロゲーム機こそゲームいや全ての始まりだー！！」
雄叫びを挙げた、店のど真ん中で。ハヤトはヘッドロックをかけながら。
「バカ、なにやってんだよ」
ひそひそと彩人をいさめていると、
「テンナイハオシズカニ」
典型的な怒マークを付けた店員にしめだされてしまった。人は怒りを無理矢理おさえると片言に成ると言うのはホントだったんだ、マジ怖かった、と、この事をそう語っているハヤトだった。
彩人はゲームショップ何それおいしいの？と、記憶から抹消され

ていたらしい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9804o/

レトロゲーム

2010年11月18日03時43分発行